

新たな地方創生in津別町

活動報告会

北海道大学公共政策大学院HALCC

2017年11月21日、北海道大学の学生団体「HALCC」*1（以下、ハルク）が、津別町で活動報告会を開催しました。昨年に引き続き、津別町を対象として、観光と教育の2分野をテーマに11月18～21日に実施した現地調査を通じて、町の現状や課題への理解を深め、町民に向けて政策提言を発表しました。

開会あいさつ



村越 佳奈
北海道大学公共政策大学院
2年

ハルクの運営を担当しています北大公共政策大学院の村越佳奈です。ハルクは北海道の学生が北海道の地域活性化を実践的に考える機会を創出するための学生団体です。学生が主体となり、学生の目線で活動を行っています。昨年の提言に加え、今年は新メンバーの視点も取り入れつつ、町の活性化の新たなアイデアを提供できればと考えています。

各班からの報告

観光班「観光ルート考案・まる太くん*2LINEスタンプ*3のコンセプト考案」

観光班は2つのグループに分かれて報告を行いました。

1) 観光ルート考案

昨年度からの問題意識である「観光資源の孤立」に加え、町の基本目標である「新しい人の流れをつくる」



観光班の活動報告の様子

ためのツールとして、観光ルートを考案します。その目的は3つあり、点在する観光資源を線でつなげること、観光の選択肢の醸成、町のポテンシャルの活用です。ヒアリングを通じて認識した町の観光全体に共通する課題として、①人材、②情報、③将来予測の3つがあります。具体的には、新たな活動を始めるための人材不足、ホームページやSNSを通じたPR不足、観光が町にもたらす効果の分析不足という課題です。これらの課題に対しては、ボランティアの募集などを通じた町内での観光人材の発掘、町外の観光客や北大生などによる町の情報発信というPR方法の工夫、企業や大学など専門機関への分析依頼などの対策が考えられます。

以上の目的や課題を踏まえ、観光ルート考案のポイントとして「既存の観光資源を活用した季節に応じたストーリー立て」と「産業観光を中心とした新たな観

*1 HALCC (ハルク)

2016年3月に津別町まちづくりアイデアコンペに参加したことをきっかけに、北海道大学公共政策大学院の吉田匡克、横田淳一郎、菩提寺凌、川合翔太が立ち上げた学生団体。Hokkaido Academic Local Creation Conferenceの略で、学生主体かつ学生目線で地方創生の可能性の提言をすることを目的として発足。2017年11月に第2期ハルクメンバー16名が津別町を訪れ、観光、教育の2分野から提言を行った。

*2 まる太くん

津別町産業振興課商工観光グループに所属する津別町のイメージキャラクター。北海道の野生動物ヒグマと愛林のまち津別町のイメージを生かし、ミズナラの木の丸太から生まれたクマの子どもという設定になっている。また、町にはラグビー合宿で全国のラグーマンが多く集まることから、ラグーシャツを着用。2017年ゆるキャラグランプリに参戦し、1151のキャラクターの中で109位と健闘した。

光の展開」を提案します。1つの季節に対するニーズは日本人と外国人で異なるため、季節ごとにくつつかのストーリー立てが必要です。そのためには観光施設や関連組織間の連携が欠かせません。また、新たな産業観光を実現するには、ガイド養成や産業従事者の負担軽減策など行政の支援が必要です。

これらを意識した観光ルートの考案は、津別町に一体感をもたらし、町民がまちに誇りを持つきっかけをつくるだけでなく、まちを訪れた人にも新たな気づきを与えることができるのではないのでしょうか。

2) まる太くんLINEスタンプのコンセプト考案

「まる太くんのLINEスタンプ」という昨年度の提言を実現に近づけるとともに、「発信力の弱さ」という町の観光における課題を解決するため、今年度は学生目線を生かした「コンセプト」について、観光班メンバーから集めたアイデアをもとに提言します。スタンプを提案する目的は主に津別町のPRですが、スタンプを通じて「地元愛の醸成」と「収益源の創出」にも貢献できると考えています。そこで、スタンプの作成は、①感情表現の豊かさ、わかりやすさ、②汎用性の高さの2点を工夫する必要があります。また、スタンプを通じて、①町民自身が津別町を手軽にPRできること、②地元愛の醸成、③町民間でのコミュニケーション促進も実現できるように、購入者のターゲットは「LINEを使用する全町民」に設定します。地元への関心を高め、町民間のコミュニケーションをうながし、それが地元愛へとつながっていくような循環をつくり上げていく可能性も広がります。

また、得られた収益は町の観光振興や社会貢献活動への還元という活用方法が考えられます。林業関係者や団体への寄付であれば、町外の人に購入してもらえる可能性があるだけでなく、町の積極的な社会貢献活動が地元の中高生が誇りを持つことにつながるのではないのでしょうか。

今回は基本的な骨格となる提案に留まりましたが、

今後の展開としては、1つのテーマに特化したスタンプ作成や関連グッズ販売などに広げていくことができればよいと考えています。

教育班「津別高校における外部と関わる機会の創出」

昨年度は「津別高校の存続」をテーマに調査を行いました。津別高校のさまざまな取り組みが認知されていないという課題が明らかになり、その解決策として「高校の魅力化」を提言しました。

これを踏まえて、今年度は①地域活性化のためには高校存続が必要である、②外部との関わりを増やすことが高校存続にとって重要であるという仮説を立て、町民へのヒアリング調査などを経て、教育を通じた地方創生のあり方を考えました。

ヒアリング調査では、子どもたちの選択肢の1つとして津別高校を存続させたいという思いや生徒数が少ないからこそ魅力があるなど、町民の高校に対するイメージや考え方について知る機会となりました。

また、ハルクメンバーが全員参加し、津別高校で「北大生×津別高校生のグループワーク・交流会」を実施しました。前半に行ったグループワークでは「津別町を町外の人に紹介するなら？」というテーマのもと、高校生と北大生がグループを組んで議論を重ね、高校生が限られた時間で意見をまとめて発表を行いました。北大生が津別町に感じている印象とは違った視点や意見を高校生から知る機会になりました。後半の交



津別高校でのグループワーク

* 3 LINEスタンプ

SNS「LINE」のメニューの1つ。イラストや言葉などを組み合わせたもので、ちょっとしたニュアンスを伝えやすかったり、SNS上の会話を楽しくしたりするツールとして人気。

流会では、高校生が自身の進路や学業について相談する場を設け、北大生が普段関わる機会の少ない高校生の考え方を知ることができた貴重な経験となりました。

終了後に行ったアンケート調査では、津別町や高校に対する生徒たちの思いを改めて知ることができ、今後ハルクが活動するうえでの重要な示唆となりました。

以上の現地調査を経て、高校の存続は必須であり、高校生の進路に対する意識を上げることが必要であることと、そのための情報提供が必要不可欠であるという結論に至りました。OBの組織づくりや講演会、メンター*4制度の実施などを通じた外部との交流機会の増加、進学および就職コースの充実を通じた進路指導の充実が解決策として考えられます。他分野と比較して教育はすぐに効果が出る分野ではないため、長期的な視点を持ち、これからも地道に取り組んでいく必要があると思います。

活動報告会の講評から

津別町長 佐藤 多一 氏



報告を聞きながらいろいろなアイデアが浮かびました。観光班の提言は、産業観光の実現可能性や町の観光のあり方について考えるきっかけとなりました。現状では、津別町を含むオホーツク圏の観光分野は団結力

に欠けるという課題があります。そこで、民間企業の協力も得ながらオホーツク全体として団結したイメージづくりに努めています。そのうえで、今後はオホーツク圏の観光における津別町の役割を考えていく必要があると考えています。LINEスタンプについては、津別町では若者だけでなくお年寄りのスマホ使用者が意外に多いので、幅広い層に使用してもらえる可能性があると思います。

教育については、津別高校の生徒数確保は重要であり、私たちもそのための努力を続けています。今回津

別高校で実施したグループワークのような外部との交流機会の創出は重要であり、周辺市町村からの学生誘致も可能だと思います。その際は、下宿先として町内の空き家を改装した建物を活用することができるかもしれません。また、町の基幹産業である林業を担う人材も今後増えていくことを願っています。

北海道大学公共政策大学院専任講師 武藤 俊雄



公共政策大学院の学生は、異なる価値観を有する人々を協力させる仕組みをいかに構築し、運用していくかについて研究しています。ハルクは1つの学問領域を超え、普段と異なる切り口から社会を見ている学生が混合した学生団体です。今回の活動では、それぞれの学生がよい刺激を受けたと思います。また、今回のようにすべて学生自身の責任で最後まで何かをやり遂げるという経験は、学生にとって非常に貴重な経験であったに違いありません。これから何かを実行していく中で、自分が持っている考え方が現実社会に通用しないことがあると思います。そのときは、それを乗り越えるための技法である「サイエンス (科学)」の知識と今回の経験を生かしてほしいと思います。



活動報告会終了後、関係者一同が津別の「つ」のポーズで記念撮影

*4 メンター

仕事や人生における指導や助言をしてくれる人のこと。企業では、新入社員などの精神的なサポートをするために、専任者を設けるメンター制度を実施しているところもある。

※ ハルクの活動については、当誌2017年3月号マルシェノルドもご参照ください。